

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	千葉商科大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	チバショウカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	商経学部、政策情報学部、人間社会学部
	担当教職員名・役職	石田美穂子 非常勤講師
基本情報	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	100
	受入企業等数	36
	受入企業等名	市川市役所、内宮運輸機構株式会社、SMBC日興証券株式会社千葉支店、株式会社ミニミニ、スターツケアサービス株式会社、広島建設株式会社、渡辺パイプ株式会社等計36社
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	大学でのインターンシップ(本学キャリア支援センターで受入れを行い、学内就職活動イベントの企業受付や会場運営等実業務を行った。)
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学の伝統的な会計分野、経理分野をはじめ、学生が希望する業種の公務員やサービス業等を揃えている。それぞれ実業務を体験する事により、実社会の理解を深め、インターンシップとしての教育効果を確立している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	平成29年度は3学部の学生100名を対象とし、7月から9月上旬の間、本学の示す一定の条件(①5日間(40時間)以上の日程、②研修プログラムの作成、③学生による事前訪問、④企業担当者による毎回の研修記録提出)を満たす企業を対象にインターンシップの実施を依頼している。学内では事前授業、事後報告会を実施し、総合的な評価、学生にもフィードバックを行い、教育効果向上のPDCAを確立している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全15回の講義内において、第2回にビジネス文書の作成、第3回に企業研究の仕方・書類作成の仕方、第6回、7回はインターンシップ実施企業を各3社招聘し、「業界・企業紹介」を実施。第8回は面接実習、第9回は「企業・業界研究」、第10・11回はそれぞれ第9回の研究をもとにエントリーシート作成の説明とプレゼンテーションを実施し、インターンシップに必要な知識を備えさせた。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	毎回の研修終了後に学生が研修内容の振り返りと学びをまとめている。更に全回研修終了後には企業担当から総合所見及び助言を受ける事で、学生が自らの課題発見と、課題克服のための目標を明確に設定できる。事後授業では先輩学生を含めた全研修生が参加する研修報告会を実施し、研修をまとめたプレゼンテーションを行い、研修で得た知見、技能及び体験を今後の大学での学びや社会生活へ、より有効に活用できるよう指導している。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学の職員がインターンシップ期間中に企業に赴き、学生及び企業と面談を行うことで現在の状況について双方から状況の確認を実施し、課題等を共有した上でより効果的な研修となるよう指導を実施し、企業の負担軽減に努めている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	企業に対して全研修生の研修態度をアンケート方式で実施。項目については積極性や協調性、勤務態度、コミュニケーション能力、ビジネスマナー、一般教養・知識などで、結果を基に翌年度の学生指導に活用している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修参加前後の学生へインターンシップによる成長度合いを客観的に示すため、「ルーブリック試験」を実施している。研修に参加したことでの自身の基礎力の変化を認識させ、そのきっかけとなったエピソードも考えさせることで、客観的な評価基準の下、学生の考える力の向上をねらっている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5～7日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5～11日間
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	単位修得の条件として原則5日間以上の研修に参加することを必須としている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	

	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学のインターンシップの目的や期待される効果、希望するプログラム等の概要をまとめた冊子「～CUCインターンシップ～ 学生の社会的・職業的自立を目指して」と講義内容等を記載した概要を企業に送付しており、企業と大学間で共有した上で、研修が決定されるため、より教育効果の高い研修が行われている。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	千葉商科大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	
	担当者氏名	佐藤拓未
	電話番号	047-373-9754
	メールアドレス	kyomu-kyotsu@cuc.ac.jp